

令和4年度 三島西中学校学校評価結果 報告書

No.1

よくあてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない

重点目標	評価結果	考察	改善策
豊かな心	<p>1 規律正しい生活や、決まりを守る心を育成するための共通実践ができている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒・教職員ともに規範意識を育成するための共通実践ができていると実感している。しかし、教職員の意識が1学期と比べやや低下しており、初心に戻る必要がある。</p> <p>◆ 規範意識の大元である「西中の校則」について、LGBTQや現在の社会意識と照らし合わせて、生徒や保護者の意見をふまえつつより良いものに改善していく</p>	
	<p>2 生徒に豊かな人間性や社会性が育っている。</p>	<p>◇ 2学期は人権劇や同和問題学習など、生き方について考える場面が多く、豊かな人間性や社会性が身に付いたと実感している生徒が増えてきている。</p> <p>◆ 人権劇や同和問題学習で深めた人権意識を、日常の中で常に心がけ実践できるようフィードバックする中で、人間性や社会性を育てていきたい。</p>	
	<p>3 全ての生徒が楽しいと言える学校・学級づくりに努めている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒・教職員の1割がすべての生徒が楽しいと言える学校・学級とはいえないと感じている。肯定的な意見が多いがその現状に甘えず、1割の現状を謙虚に受け止め、更に向上させる必要がある。</p> <p>◆ 引き続き、自己表現の苦手な生徒の声をくみ取るための工夫と人間関係づくりに努め、それを学級運営に繋げていきたい。</p>	
	<p>4 一人一人の生徒に対して、適切な支援が行われている。</p>	<p>◇ 保護者、生徒、教職員ともに、支援の必要な生徒に対し、適切な支援が行われていると感じている。教職員の共通理解と共通実践の成果と考える。</p> <p>◆ 今後も一人一人の生徒の適性を判断し生徒に寄り添いながら、適切な支援をチーム(情報交換を通して)を組んで取り組んでいきたい。</p>	
	<p>5 生徒が自分で考え、判断し、行動する力(自己教育力)が育っている。</p>	<p>◇ ほとんどの保護者や生徒が、自己教育力が高まってきていると感じている。教職員から見ると、更に高められるし高まってほしいという願いを感じる。</p> <p>◆ 今後も道徳教育の充実に努め、日常の中で生徒に任せる場面の設定や、自己判断させる場面を増やすことにより自己教育力を高めていきたい。</p>	
	<p>6 最後まで頑張り抜くたくましさ、豊かな心が育っている。</p>	<p>◇ 全体的に、最後まで頑張り抜くたくましい実践力が育ってきているが、不十分な点もある。生徒は頑張っていると感じているので、頑張り認めつつ次の目標を掲げていく必要がある。</p> <p>◆ 生徒のスキルを見極めつつ、最後まで頑張り抜く達成感を味わわせる経験を積ませることにより、実践力を高めていきたい。</p>	

確かな学力	7 指導方法を工夫 (ICTの活用を含む) し、分かる授業の充実に努めている。	<p>保護者: 約15% (肯定), 約65% (不十分), 約20% (不明)</p> <p>生徒: 約35% (肯定), 約45% (不十分), 約20% (不明)</p> <p>教職員: 約40% (肯定), 約55% (不十分), 約5% (不明)</p>	◇ 教職員は分かる授業の充実に努めていると感じている。しかし、保護者の意見は1学期より1割ほど肯定的な意見が増えているがまだ厳しいものがある。保護者は成果として現れなければ実感できないのだと感じた。 ◆ Chromebookを有効活用し、今まで以上に分かる授業の充実に努めるとともに、成果が実感できるよう「見とり」を大切
	8 基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている。	<p>保護者: 約20% (肯定), 約60% (不十分), 約20% (不明)</p> <p>生徒: 約45% (肯定), 約45% (不十分), 約10% (不明)</p> <p>教職員: 約25% (肯定), 約65% (不十分), 約10% (不明)</p>	◇ 保護者の2割が基礎・基本の定着が不十分と感じているが、生徒・教職員の肯定割合は昨年度より向上している。今後も分かる授業の充実に努めるとともに、家庭学習習慣の定着が必要である。 ◆ 基礎的・基本的な事項を繰り返し学習することや小テスト、振り返りの時間などを充実させていきたい。また、家庭との連携も大切にしていきたい。
	9 家庭学習の習慣がしっかり身に付いている。	<p>保護者: 約20% (肯定), 約50% (不十分), 約30% (不明)</p> <p>生徒: 約20% (肯定), 約45% (不十分), 約35% (不明)</p> <p>教職員: 約10% (肯定), 約60% (不十分), 約30% (不明)</p>	◇ 保護者・生徒・教職員の3割~4割が家庭学習は不十分と感じている。家庭学習の習慣を定着させ学力の向上に繋げる必要がある。 ◆ 家庭学習が定着している生徒のやり方を紹介したり、全国や県と比較したデータを知らせ、さらなる頑張りや喚起させたい。また、家庭とも連携し家庭学習の習慣化を図っていきたい。
	10 宿題や授業の準備物などの忘れ物がないよう取り組んでいる。	<p>保護者: 約40% (肯定), 約55% (不十分), 約5% (不明)</p> <p>生徒: 約45% (肯定), 約35% (不十分), 約20% (不明)</p> <p>教職員: 約60% (肯定), 約35% (不十分), 約5% (不明)</p>	◇ 忘れ物をなくす家庭での取り組みについて、保護者の9割が、また、生徒・教職員の8割ができていると感じている。毎時間行われる忘れ物調べの成果と考える。 ◆ 一部の生徒が、繰り返し忘れるということもあるので、粘り強く生徒と関わるとともに保護者との連携を図り、忘れ物が達成できるよう働きかけていきたい。
	11 進んで読書に親しむ態度が身に付いている。	<p>保護者: 約20% (肯定), 約40% (不十分), 約40% (不明)</p> <p>生徒: 約35% (肯定), 約25% (不十分), 約40% (不明)</p> <p>教職員: 約25% (肯定), 約55% (不十分), 約20% (不明)</p>	◇ 保護者・生徒の約4割が、読書に親しむことに対し不十分と感じている。また、教職員の肯定割合も低下している。デジタル機器等の普及で読書の習慣が低下していると思われる。 ◆ 今後も、毎日の朝の読書の時間を継続し、学級文庫や図書系の活動を活性化させていきたい。また、デジタル図書館の利活用を啓発していきたい。
	12 資料などを活用して、自分で問題を解決する力が付いている。	<p>保護者: 約20% (肯定), 約65% (不十分), 約15% (不明)</p> <p>生徒: 約30% (肯定), 約45% (不十分), 約25% (不明)</p> <p>教職員: 約20% (肯定), 約65% (不十分), 約15% (不明)</p>	◇ 保護者・教職員の8割~9割が肯定的な意見に対し、生徒の肯定的な意見は7割に留まった。資料などを活用した問題解決的な学習やそれに伴う成功体験が不十分と考える。 ◆ 授業の中で問題解決的な学習を多く設定するよう努めるとともに、家庭においても日常の中の疑問を自分で調べたり、体験する中で解決する体験ができるよう

健 や か な 心 と 体	<p>13 中学生らしい身だしなみや基本的な生活習慣が身に付いている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒・教職員とも、中学生らしい身だしなみや基本的な生活習慣が定着していると感じている。日頃の学校での取組、保護者の理解の成果と思われる。</p> <p>◆ 今まで培ってきた取組を継続させるとともに、それと平行して中学生らしい身だしなみについて抜本的に検討していきたい。また、基本的な生活習慣の指導に磨</p>
	<p>14 学校の教育方針に対し、保護者の理解と協力が得られている。</p>	<p>◇ 人権意識の向上や規範意識を育てる生活指導について、保護者・生徒の9割以上が肯定的に捉えている。全員に理解が得られるような働きかけが必要である。</p> <p>◆ 人権意識の向上や規範意識を育てる生活指導は引き続き実践していきたい。また、保護者への理解が得られるようHPや学級通信で伝えるとともに、一人</p>
	<p>15 命の尊厳や、人権尊重の精神を育成する共通実践が行われている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒のほとんどが人権尊重の意識を育成する共通実践が行われていると感じているが、教職員の肯定割合は1学期より低下している。教職員一人一人のスキルアップが必要である。</p> <p>◆ 教職員のスキルアップを図るための研修を充実させたい。また、引き続き家庭との連携を図ることにより、人権意識を育て育んでいきたい。</p>
	<p>16 いじめや差別、社会の不合理を解消しようとする実践力が育っている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒・教職員の肯定的な割合が高いが、実践力となると不十分な点も見られる。生徒間のトラブルなど学習を実生活に結びつけることが課題である。</p> <p>◆ 学級のリーダーを中心に仲間づくりを推進し、学校生活の向上を図りたい。また、生徒には個に応じた対応、保護者には情報提供や協力依頼をしていきたい。</p>
	<p>17 体力づくりに努め、健康で規則正しい生活が送れている。</p>	<p>◇ 保護者・生徒・教職員ともに、健康で規則正しい生活に努めていると感じている割合が低下している。コロナ禍による運動不足やSNS等の影響で睡眠不足の生徒もいると推測できる。</p> <p>◆ 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を定着させるとともに、情報通信機器の使用方法や使用時間について、家庭とも連携をとりながら働きかけていきたい。</p>
	<p>18 非常変災等に対し、安全意識や危機回避能力が育っている。</p>	<p>◇ 非常変災や地震への危機意識がやや低下してきている。避難訓練の実施や安全教育を通し、生徒・教職員の危機意識の向上を図る必要がある。</p> <p>◆ 様々な場面を想定した避難訓練や安全教育を一層充実させていきたい。また、教職員の研修(非常変災時の対応など)の機会を増やすとともに家庭への啓発活動をしていきたい。</p>

開かれた学校	<p>19 学校行事を適切に運営し、参観日などで学校を開放している。</p> <p>保護者: 約48% (Blue), 約52% (Red), 約0% (Yellow)</p> <p>生徒: 約72% (Blue), 約28% (Red), 約0% (Yellow)</p> <p>教職員: 約70% (Blue), 約30% (Red), 約0% (Yellow)</p>	<p>◇ 1学期は感染拡大防止の観点より参観日や学校開放の行事が行えなかったが、2学期は体育祭や人権集会、合唱コンクールなど感染防止対策を工夫し、実践することができた。</p> <p>◆ 引き続きHPや学級通信、学年通信等を通じて学校行事の様子を伝える取組をしていきたい。</p>
	<p>20 PTA組織は有効に運営され、PTA活動が適切に行われている。</p> <p>保護者: 約30% (Blue), 約65% (Red), 約5% (Yellow)</p> <p>生徒: 約35% (Blue), 約35% (Red), 約20% (Yellow), 約5% (Cyan)</p> <p>教職員: 約48% (Blue), 約42% (Red), 約10% (Yellow)</p>	<p>◇ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、十分なPTA活動が行えていないが、PTA役員の努力によりPTA活動が広く認知されつつある。</p> <p>◆ PTA役員を核にした創意あるPTA活動を企画・運営することにより、保護者の関心を高めていきたい。また、生徒にもPTA活動により支えていただいていることを伝えていきたい。</p>
	<p>21 HPや学年・学級通信などで、学校の教育活動を発信している。</p> <p>保護者: 約50% (Blue), 約45% (Red), 約5% (Yellow)</p> <p>生徒: 約70% (Blue), 約30% (Red), 約0% (Yellow)</p> <p>教職員: 約65% (Blue), 約35% (Red), 約0% (Yellow)</p>	<p>◇ ホームページや学級通信、学年通信などの充実により、保護者・生徒・教職員ともに肯定割合が高くなっている。今後も、継続した取組を行いたい。</p> <p>◆ 生徒や保護者のニーズに対応した積極的な情報発信に努め、学校教育への理解や支援を促進していきたい。</p>
	<p>22 保護者や地域と協力して、教育活動が行われている。</p> <p>保護者: 約38% (Blue), 約62% (Red), 約0% (Yellow)</p> <p>生徒: 約58% (Blue), 約32% (Red), 約10% (Yellow), 約0% (Cyan)</p> <p>教職員: 約42% (Blue), 約48% (Red), 約10% (Yellow)</p>	<p>◇ 学級担任を中心に、保護者と連携・協力ができている。生徒にも実感があり、肯定割合の向上につながっていると思われる。</p> <p>◆ 今後も、保護者や地域とのつながりを大切に、好ましい信頼関係の構築や連携強化に努めていきたい。また、地域との連携も視野に入れ準備を進めていきたい。</p>
	<p>23 地域の自然・文化・人材を教育活動に活用している。</p> <p>保護者: 約38% (Blue), 約58% (Red), 約4% (Yellow)</p> <p>生徒: 約45% (Blue), 約35% (Red), 約10% (Yellow), 約10% (Cyan)</p> <p>教職員: 約42% (Blue), 約48% (Red), 約10% (Yellow)</p>	<p>◇ 2学期は、総合的な学習の時間や行事等で地域の特性や人材を活かした取組を行うことができた。</p> <p>◆ 学校運営協議会のメンバーに力を貸していただき、教材や人材の発掘、また、活用を積極的に行っていく必要がある。保護者にも協力を依頼し、情報収集に努めたい。</p>
	<p>24 地域の行事に積極的に協力している。</p> <p>保護者: 約35% (Blue), 約60% (Red), 約5% (Yellow)</p> <p>生徒: 約45% (Blue), 約35% (Red), 約10% (Yellow), 約10% (Cyan)</p> <p>教職員: 約30% (Blue), 約55% (Red), 約15% (Yellow)</p>	<p>◇ 保護者は地域の行事を身近に感じている反面、生徒・教職員が地域の行事に対し関心が薄いようである。特に生徒は肯定割合が低下してきている。コロナ禍の影響と思われる。</p> <p>◆ 学校運営協議会の協力を得ながら、地域と生徒をつないでいきたい。また、地域と結びついた学校行事やPTA活動の在り方を工夫していきたい。</p>